

第7表 51次調査 出土遺物

番号	種類	器種	遺構	層位	レベル	備考	整理No.
27	瓶	盤頸	S P144		1,423	古窯戸後Ⅰ～Ⅱ期	97 I 212
28	壺器系	壺・甕	S P185		0,815		97 I 226
29	壺器系	壺・甕		Ⅲ層上面	1,398		97 I 215
30	壺器系	壺・甕			1,511		97 I 219
31	壺器系	壺・甕	S P185		1,438		97 I 225
32	珠陶	壺・甕		Ⅲ層上面	1,456		97 I 217
33	珠陶	すり鉢			1,441		97 I 214
34	珠陶	壺・甕			1,567		97 I 224
35	珠陶	壺・甕			1,391		97 I 223
36	珠陶	すり鉢			1,503		97 I 220

## &lt;まとめ&gt;

第51次調査の要点をまとめると以下のとおりである。

近世遺構と中世遺構の間に約40～50cmの飛砂層の堆積が確認された。

近世遺構は標高約2.0m、第Ⅱ層（飛砂層）の上面で検出された。また、近世の井戸（S E117）から近世初頭（16世紀末～17世紀初め）におさまる一括性の高い陶磁器群が出土した。近世初頭の陶磁器には越前すり鉢1点（21）の他はすべて肥前陶器（唐津焼）で占められていた。

中世遺構は標高1.6m、現在の道路面から約1.0m下がった所から検出された。中世遺構には柱穴・土坑・溝がある。調査範囲が狭く、遺構全体の性格はよく分かっていないが、中世遺物は14世紀代の範疇に含まれる陶磁器が出土している。

以上のことから、中世十三湊の廃絶後（15世紀中頃以降）に大規模な自然環境の変化によって、前



1. 近世遺構 検出（北から）



2. 中世遺構 完掘（北から）



3. 調査区東壁の断面層位1（西から）  
(近世面～中世面にかけて飛砂層が堆積する。)



4. 調査区東壁の断面層位2（西から）



5. S E17 近世井戸（西から）



6. S E17 出土遺物・肥前陶器 皿



7. S E17 出土遺物・肥前陶器ほか



8. 中世遺構面の出土遺物

潟に面した一帯に飛砂層（約40～50cm）が堆積したことが明らかとなった（後述する第54次調査では約1.1～1.2mも飛砂の堆積が確認されている）。そして、16世紀末・17世紀初頭になると新たに前潟に面した場所に近世十三湊が成立することも明らかとなった。また、中世十三湊の廃絶から近世十三湊が成立する約100年余りの間は遺物は全く出土せず、人が住んでいた痕跡は認められない。これは砂丘が形成されるほど大規模な飛砂による自然環境の変化によって、湊として利用できなくなった状況が生まれたと考えられる。

## 第54次調査

所在地：市浦村大字十三字深津61付近

調査期間：平成9年4月23日～平成9年5月27日

調査目的：十三地区漁業集落環境整備事業に伴う調査

調査面積：7m<sup>2</sup>

国土座標：a (X=114155.193, Y=-42352.524)

b (X=114149.935, Y=-42354.015)

### <調査の成果>

54次調査は十三山湊迎寺（浄土宗）の西側で、前潟に面した十三集落の県道下で実施した（第11図）。調査範囲は東西1.3m×南北5.4m、面積約7m<sup>2</sup>である。

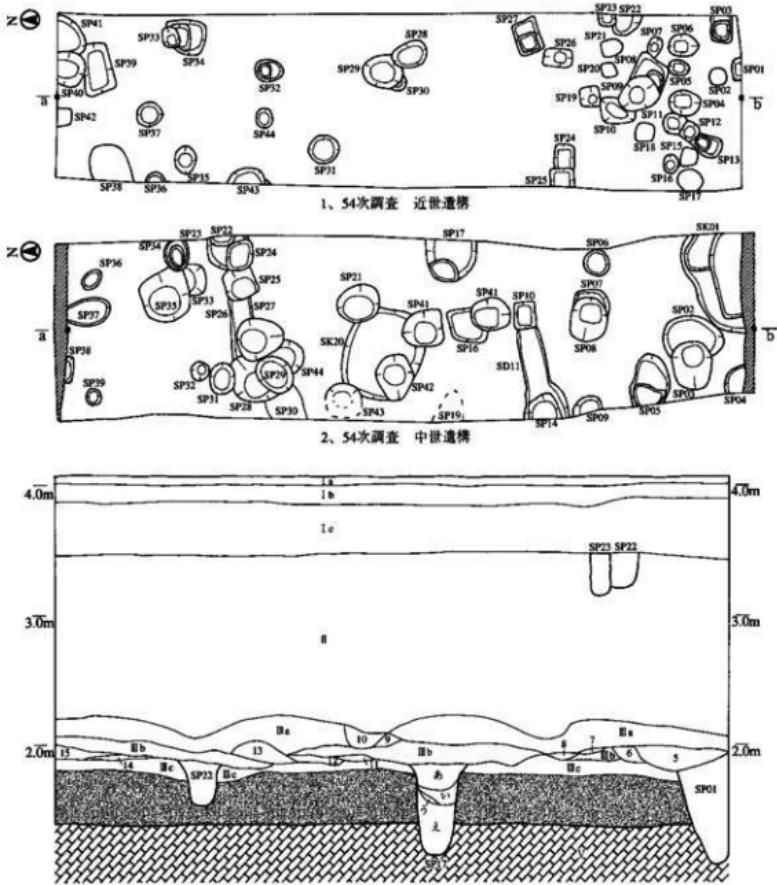
調査地点の標高は4.1mを測る。調査方法は土留め用の矢板を上方に連結させ、掘り進めていった。なお、遺構の実測作業は調査区の両端に任意の2点を求めて水糸を張り、それに直交するように点を求めた。任意の2点はトータルステーションによって国土座標を算出し、後日、地図上に調査地点を求められるようにした。

調査は道路面のアスファルト（第I a層）及び碎石層（第I b・I c層）を重機によって掘削すると、第II層面上（標高3.5m）で、近世遺構が検出された（第15図）。碎石層と第II層の間には腐食土層もないことから、県道の造成に当たって、地表面をある程度掘削した可能性が考えられる。近世遺構では主に柱穴が検出されている。柱穴は円形及び方形のプランを呈し、浅いものが多い。近世遺物では肥前・肥前系の陶磁器が13点ほど出土したが、細片のため不明なものが多く、図示していない。

第II層は灰白色～黄褐色を呈し、均質に堆積する飛砂層と考えられる。第II層は約1.2～1.4mの堆積が見られるが、遺物等は全く出土しない。続く第III層はa～c層に細分され、約30～40cmの堆積が見られる。中世遺構は標高1.9m程の第III層中から掘り込まれておらず、遺構埋土はすべて第III層のものであった。また、第III層からはたくさんの中世遺物が出土している。

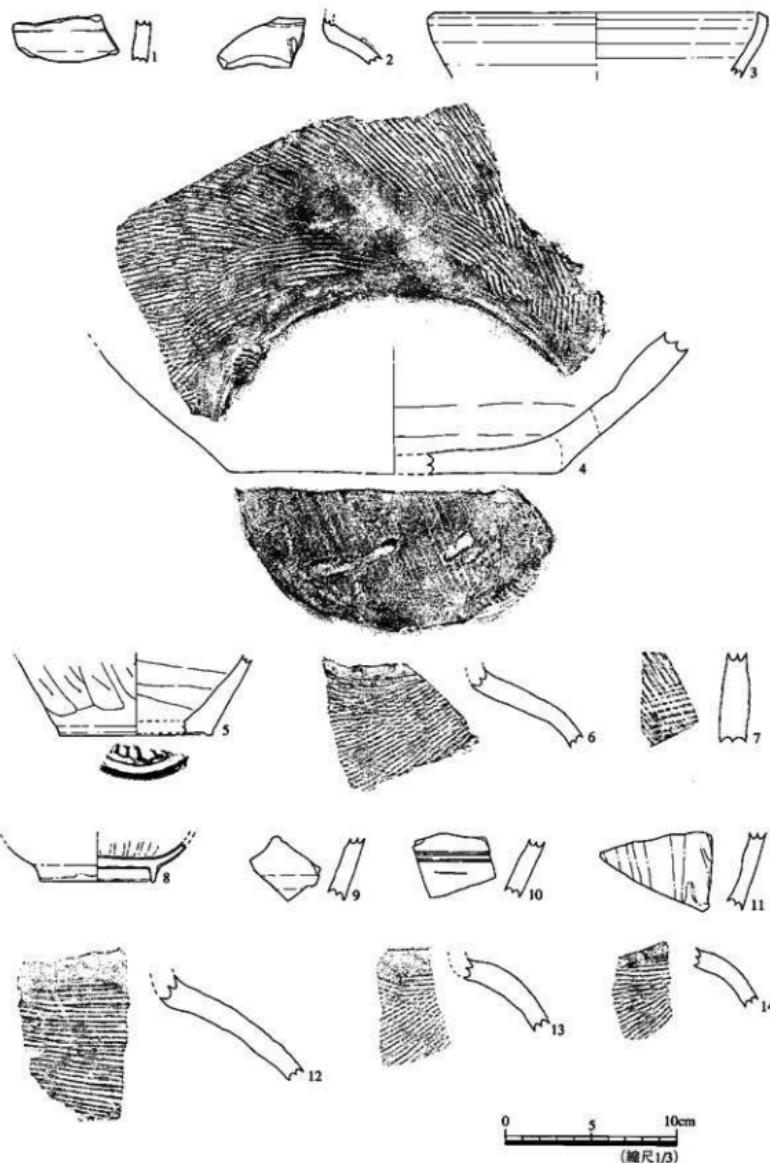
中世遺構は第IV層上で検出した。第IV層は黒色腐食土層で、遺構埋土と見分けがつきやすい。第IV層は約40cmの堆積が見られる。そして、続く第V層の黄褐色砂層の地山面になる。中世遺構には土坑2基（SK01・20）、溝2条（SD11・26）のほか、多数の柱穴が検出された。調査面積7m<sup>2</sup>にも係わらず、44点もの遺物（陶磁器・鉄製品・銅製品）が出土している。また、最も注目されたのは管見の限り、十三湊遺跡の中で最も古い時期のまとまりのある遺物群が出土したことである。遺物から見た年代の上限では13世紀初めに相当し、下限は14世紀代という年代幅が考えられる。ここでは特徴的な点をいくつか上げておきたい（第16～18図）。

珠洲では卸目を持たないこね鉢がまとまって出土している（3・18～20）。これは口径20cm程の小型品である。年代的には珠洲II期初め（13世紀初め）に位置づけられる。瀬戸は5点すべてが古瀬戸前期様式（12世紀末～13世紀代）に位置づけられ、四耳壺や梅瓶など壺瓶類が多い。貿易陶磁器は唯一青磁壺が1点出土している。底部破片のため全体の形状は知り得ないが、内面に菊花状の文様が見られる。底部の墨付けは赤褐色を呈する。青磁釉には光沢があり、質入が認められる質の高い良品である。これは大宰府分類の龍泉窯系青磁壺III類（13世紀末～14世紀前半）に相当する。瓷器系陶器は壺



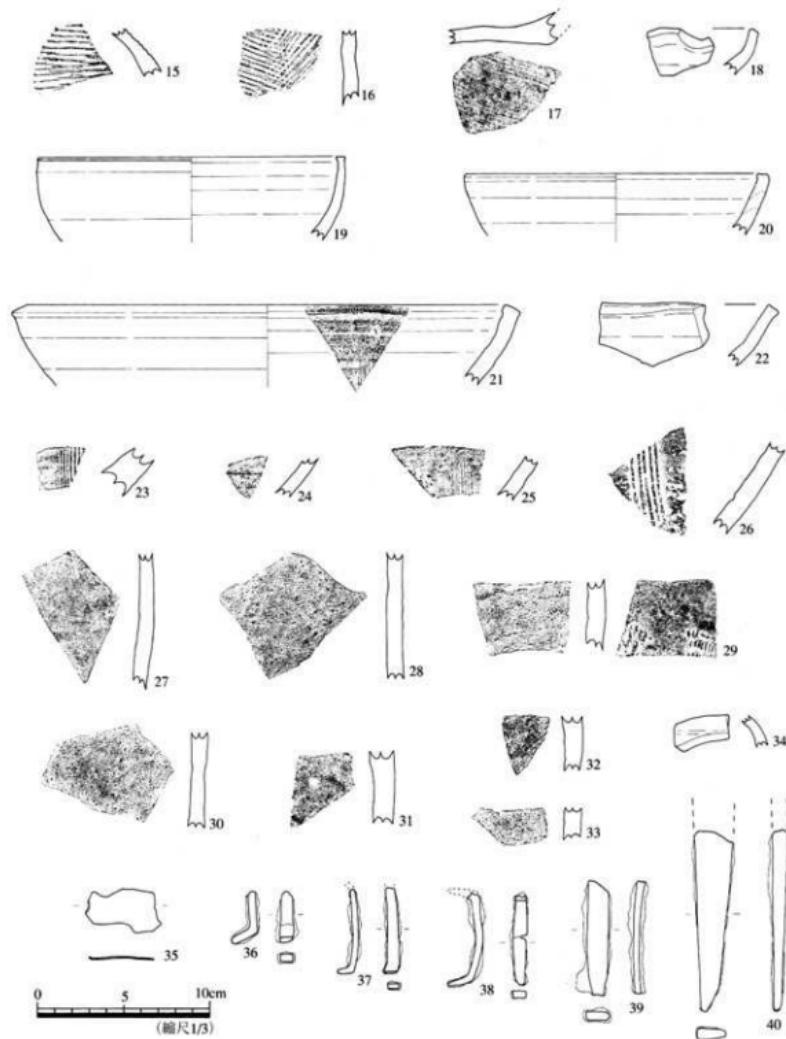
国土座標点 a | X=114155.193 Y=-42352.524 b | X=114149.935 Y=-42354.015

第15圖 54次調查 平面圖・断面図位



第16図 第54次調査 中世遺構面 出土造物 (1)

の体部破片が7点出土している。鉄製品には釘・鍵・刀子が出土している。また、銅製品には錢が3点出土している。うち2点は景德元寶（北宋・1004年）、元豐通寶（北宋・1078年）である。また、古代の遺物では五所川原産須恵器の長頸壺の底部片が出土している。これは底部外面に菊花状圧痕が認められるもので、持子沢系窯の製品であろう。



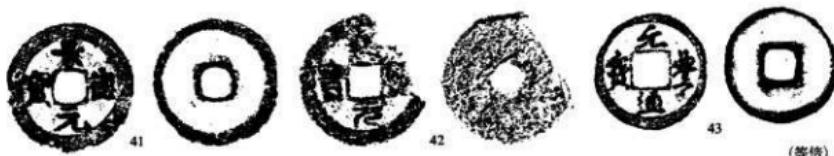
第17図 第54次調査 中世遺構面 出土遺物 (2)

第8表 54次調査 中世遺構出土遺物

番号	種類	器種	遺構	層位	レベル	備考	整理No
1	瓶	壺・瓶	S K01	1,541	古瀬戸前田～IV期	97 I 359	
2	瓶	四耳壺		1,482	古瀬戸前田～Ⅳ期	97 I 360	
3	珠撰	すり跡		1,319	珠撰Ⅱ期初め	97 I 362	
4	珠撰	壺・瓶	S P29	1,666	珠撰Ⅱ期初め	97 I 364	
5	須恵器	長頸壺		1,516	底部に菊花紋瓦痕アリ、五所川原窯	97 I 365	
6	珠撰	壺・甕		1,752	珠撰Ⅲ期	97 I 363	
7	珠撰	壺・甕	S P30	1,254	珠撰Ⅲ～IV期	97 I 366	
8	吉備	环		1,961	内面に蓮弁文	97 I 343	
9	瀬戸	四耳壺か?		1,926	古瀬戸前田～IV期	97 I 354	
10	瀬戸	四耳壺か?	田畠	1,994	古瀬戸前田～IV期	97 I 342	
11	瀬戸	梅瓶		—	古瀬戸前田～IV期	97 I 370	
12	珠撰	壺・甕		1,936	珠撰Ⅲ期	97 I 346	
13	珠撰	壺・甕	S P02	1,931	珠撰Ⅲ期	97 I 336	
14	珠撰	壺・甕		2,006	珠撰Ⅲ期	97 I 339	
15	珠撰	壺・甕		1,561	珠撰Ⅲ～IV期	97 I 361	
16	珠撰	壺・甕	田畠	2,142	珠撰Ⅲ～IV期	97 I 330	
17	珠撰	壺R縁		1,922		97 I 338	
18	珠撰	鉢		1,836	珠撰Ⅲ期初め	97 I 352	
19	珠撰	鉢	田畠	2,063	珠撰Ⅲ期初め	97 I 344	
20	珠撰	鉢		1,864	珠撰Ⅲ期初め	97 I 353	
21	珠撰	すり跡		1,944	珠撰Ⅲ期	97 I 357	
22	珠撰	すり跡	田畠	1,859	珠撰Ⅲ期	97 I 350	
23	珠撰	すり跡		1,914	珠撰Ⅲ～IV期	97 I 345	
24	珠撰	すり跡		—		97 I 367	
25	珠撰	すり跡	田畠	1,855	珠撰Ⅲ期	97 I 355	
26	珠撰	すり跡		2,053	珠撰Ⅳ期	97 I 341	
27	愛宕系	壺・甕		1,944		97 I 358	
28	愛宕系	壺・甕	田畠	—		97 I 368	
29	愛宕系	壺・甕		1,967		97 I 356	
30	愛宕系	壺・甕		1,864		97 I 347	
31	愛宕系	壺・甕	田畠	2,041		97 I 337	
32	愛宕系	壺・甕		2,061		97 I 331	
33	愛宕系	壺・甕		2,021		97 I 340	
34	珠撰	壺R縁	田畠	—	クロ釦	97 I 371	
35	鉄製品	不明		1,829		97 I 348	
36	鉄製品	釘		2,060		97 I 369	
37	鉄製品	釘	田畠	2,033		97 I 332	
38	鉄製品	鉗		1,974		97 I 329	
39	鉄製品	釘		2,125		97 I 333	
40	鉄製品	刀子	田畠	1,727		97 I 349	
41	銅製品	錢		—	崇徳元寶(北宋、1004年)	97 I 372	
42	銅製品	錢		2,019	○○元寶	97 I 334	
43	銅製品	錢		1,750	元豐通寶(北宋、1078年)行書	97 I 351	

第9表 54次調査 中世陶磁器の種類・器種別組成表

種類	器種	破片数	個体数
青磁	环	1 [ 3.0% ]	0 [ * % ]
瀬戸	四耳壺	3	0
	梅瓶	1	0
	壺・瓶	1	0
	小計	5 [ 15.2% ]	0 [ * % ]
珠撰	すり跡	9	0.34
	壺・甕	9	0
	壺R縁	2	0
	小計	20 [ 60.6% ]	0.34 [ 100.0% ]
愛宕系	壺・甕	7 [ 21.2% ]	0 [ * % ]
総計		33 [ 100.0% ]	0.34 [ 100.0% ]



第18図 第54次調査 中世遺構面 出土遺物 (3)

(等倍)

#### <まとめ>

第54次調査の要点をまとめると以下のとおりである。

近世遺構と中世遺構の間に約1.1~1.2mの飛砂層の堆積が確認された。

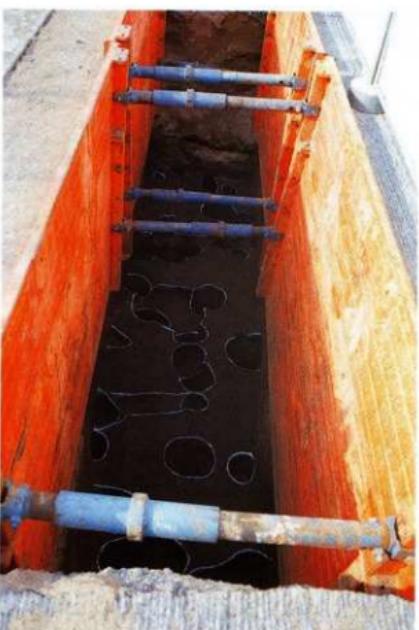
中世遺構は標高1.9m、現在の道路面から約2.2mも下がった所から検出された。中世遺構には柱穴・土坑・溝があるが、最も注目された点は共伴した陶磁器である。

陶磁器には珠洲・瀬戸・瓷器系陶器がある。これは管見の限りでは、十三湊遺跡の中で最も古い様相を示す遺物群である。陶磁器から見た年代の上限は13世紀初めであり、下限は14世紀代までの年代幅を有する。また、遺物量から見た場合には13世紀代が主体の時期と考える。また、逆に十三湊遺跡では通常出土する15世紀代の陶磁器は1点も見られなかった点も付け加えておきたい。

のことから、初期の湊町が前潟に面した一角（現在の湊迎寺門前）に形成されていたことが明らかとなつた。これは恐らく湊迎寺の前身に当たる何らかの宗教施設が存在し、初期の湊町がその門前に自然発生的に生まれたのではないかと推測することができる。



1. 近世遺構 完掘（南から）



2. 中世遺構 完掘（南から）



3. 北壁断面層位（南から）



4. 中世遺構 北半部完掘（西から）



5. 中世遺構面の出土遺物

## 第78次調査

所 在 地：市浦村大字十三字深津142

調査期間：平成9年10月21日～平成9年11月12日

調査目的：十三地区防火水槽設置に伴う調査

調査面積：40m<sup>2</sup>

### <調査の概要>

市浦村十三地区の防火水槽設置に伴う発掘調査を実施した。調査地点は十三塗遺跡の北部、半島状に伸びる砂洲上の先端に近い場所に位置する(第19図)。また、この地点は現在の県道(鰐ヶ沢一蟹田線)に沿った集落内の一角に当たり、すでに家屋の撤去によって更地となっていた。調査区周辺の標高は2.5mほどの低地である。

### <基本層序>

南壁・東壁の2箇所で土層の堆積状況を確認した。近年まで十三集落の一角として家屋が軒を並べていたことから、中世～現代にわたる遺構の形成や盛土・削平による複雑な様相を見せて、ここでは十三塗遺跡の基本層序に対応させて、各層序の概要を示すこととする。

第I・II層：現代の盛土整地層である。第I層は30～45cm、第II層は10～40cmの堆積が見られる。

第III層：黒褐色の砂質土層で、10～15cmの堆積が見られる。第III層は中世遺構面及び中世遺物包含層である。しかし、第III層上面において、近現代の遺構も検出されている。このことから、近世の包含層は度重なる現代の盛土整地によって、削平されていることが明らかとなった。中世遺構面の標高は約1.8mである。

第IV層：黒色腐植土層である。約10～30cmの堆積が見られる。中世遺構は第IV層上面で確認している。

第V層：明黄褐色の砂質土層で、地山面の無遺物層に相当する。

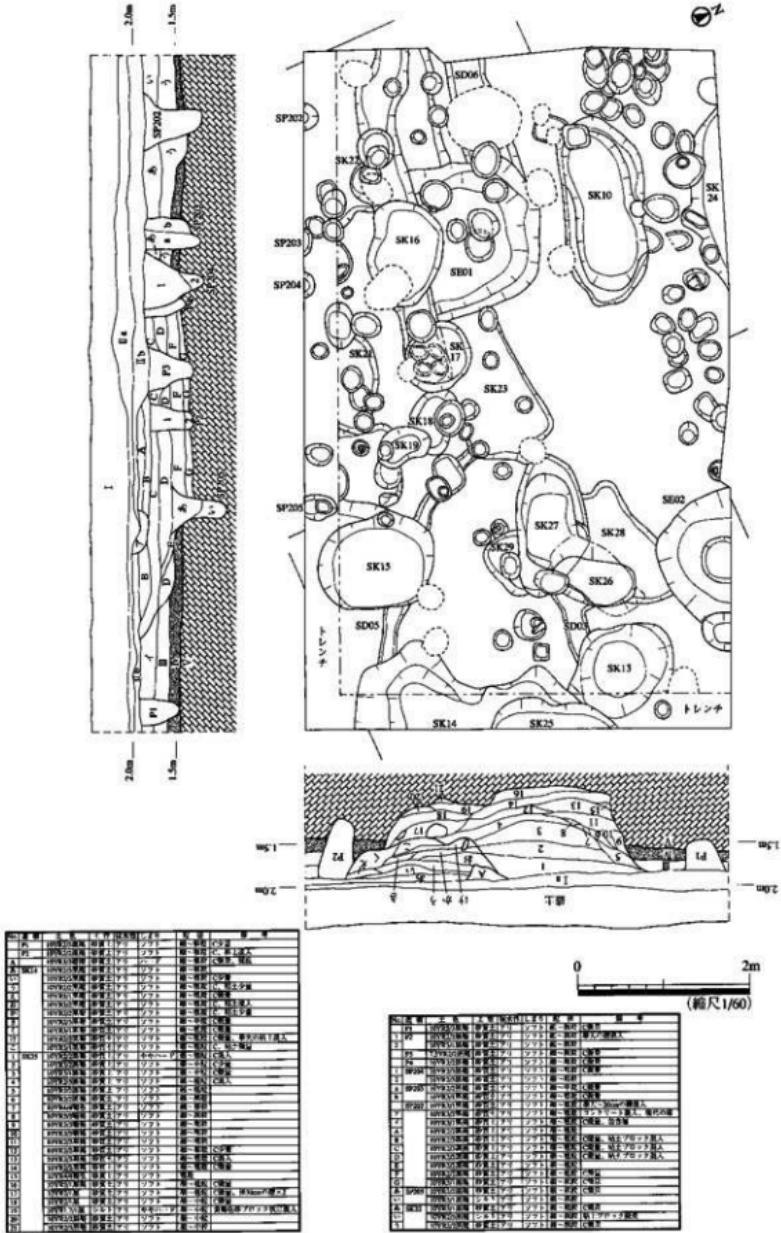
### <調査の成果>

調査では近世～近現代の遺構面と中世遺構面の2遺構面を確認した。近世～近現代の遺構は第III層上面で検出した(写真2)。主な遺構にはSB01掘立柱建物(1間×3間)と土坑4基があるが、その他には柱穴が散見される程度で遺構密度は非常に少ない。また、SB01に伴う柱穴からは近現代のガラス製品及び衣服のボタンなどが出土しており、近現代の掘立柱建物であることも分かった。遺物の面でも近世～近現代の遺物は非常に少ない。

中世遺構は第IV層上面で検出した(第20図)。ここでは多くの遺構が重複して検出され、遺構に伴って遺物も多数出土している。また、中世遺物は14世紀代を中心としたまとまりのある遺物群である。



第19図 第78次調査位置図 (S=1/4000)



第20図 第78次調査 中世遺構平面図・断面層位図

ことも明らかとなった。これまで十三湊遺跡の内陸部の調査（推定領主館・家臣団屋敷の調査）では、最盛期が14世紀末～15世紀前半と考えられている。しかし、今回の調査地区はそれよりもやや古い、14世紀代を中心とした時期に生活空間として活発に利用されていたことが明らかとなった。十三湊遺跡の北端部、半島の先端近くには古くから湊町の居住空間として利用されていたのであった。

以下、中世期の遺構・遺物について記述する（なお、近世～近現代の遺構・遺物については省略する）。

#### <中世遺構>

調査は40m<sup>2</sup>という狭い範囲にも関わらず、多くの遺構が重複して検出されている。

検出された主な遺構には溝3条、井戸2基、土坑16基を数え、その他多数の柱穴が伴う（第21図）。

##### (a) 溝

S D04の主軸は東西方向（N-78°-W）で、やや蛇行して伸びる。規模は幅40～50cm、深さ35cmを有する。遺構の新旧関係ではSK16・17より古い。出土遺物は全くない。

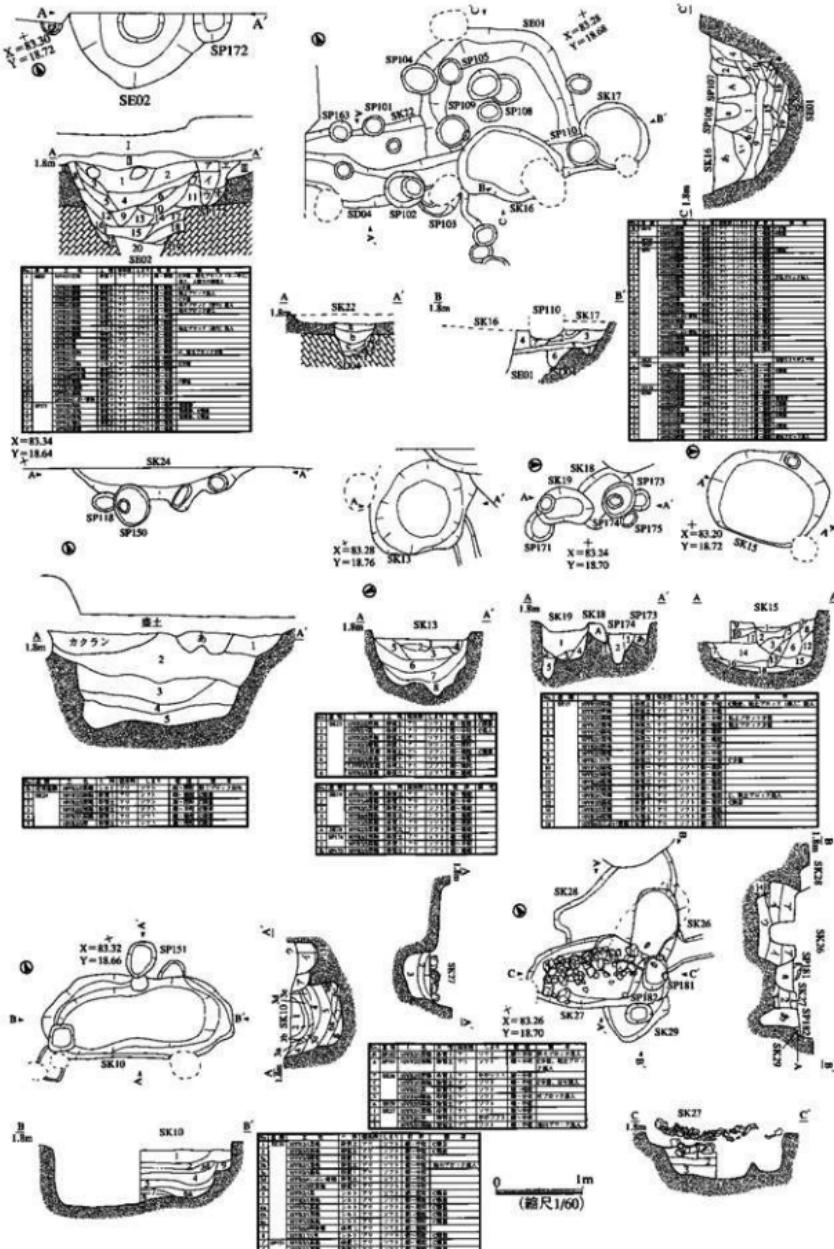
S D03・05は他の遺構に切られて判然としないが、恐らく弧状に巡る一連の溝と考えられる。SD03は幅25cm、深さ10cmである。一方、SD05は幅15～25cm、深さ10cmを測り、ほぼ同一の規模を有する。

##### (b) 井戸

井戸跡は2基検出されている。井戸は生活飲料に必要不可欠であり、居住空間として利用されていたことが伺える。以下、個別に記述する。

**S E01**：調査区の南西側に位置する。平面形は南北にやや長い不整な楕円形、壁はなだらかに立ち上がるすり鉢状を呈する。規模は南北2.1m×東西1.7m、深さ1.0mを測る。底面から曲物の痕跡と思われる直径35cmの円形の掘り込みが確認された（写真12）。湧水は見られなかった。また、土層は井戸枠の抜取り作業による二次的な埋土及び堆積状況と判断される。井戸枠は抜き取られた可能性が高い。出土遺物には珠洲の壺甌2点、すり鉢2点が出土している。井戸の年代は14世紀代と推される。遺構の新旧関係では、SE01はSP104～110、SK16・17、SD04より古い。

**S E02**：調査区の北東隅に位置し、全体のおよそ半分だけが検出されている。そのため全体の形状は不明であるが、恐らく直径2.0m前後の円形を呈するものと考えられる。壁はなだらかに立ち上がるすり鉢状を呈する。規模は南北2.0m×東西1.7m、深さ1.2mを測る。検出面から約1.2m下がった標高0.6mで湧水が見られた。底面には曲物の痕跡と思われる直径55cmの円形の掘り込みが確認された。また、土層は井戸枠の抜取り作業による二次的な埋土及び堆積状況と判断され、井戸枠は抜き取られた可能性が高い。遺物では珠洲すり鉢2点、古瀬戸の折縁小皿1点、折縁深皿1点、瓷器系陶器の壺甌1点、鉄釘1点、銅製品の鏡1点が出土している。井戸の年代は14世紀代と推される。遺構の新旧関係では、SE02はSP172より古く、SK28より新しい。



第21図 第78次調査 中世遺構

### (c) 土坑

土坑は検出された遺構の中で、最も主体を占めており、全域にわたって分布し、重複も激しい。土坑の平面形には大きく円形及び楕円形を呈するものがある。前者はゴミ捨て穴、後者には墓の可能性が高い。以下、個別に記述する。

S K24：調査区の北西隅に位置し、全体のおよそ4分の1が検出されている。平面形は全く不明である。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は逆台形状を呈する。規模は東西幅2.2m、深さ1.2mを測る。堆積土は5層に分けられ、黒褐色及び暗褐色の砂質土が含まれる。炭化物を微量に含む。遺物では珠洲すり鉢1点が出土している。

S K13：調査区の北東隅に位置する。平面形は不整な円形を呈する。壁はなだらかに立ち上がるすり鉢状を呈する。規模は直径1.2mで、深さ1.0mを測る。暗褐色、黒褐色、黒色の砂質土が含まれる。炭化物を微量に含む。遺物では珠洲すり鉢1点、瓷器系陶器のこね鉢、銅製品の錢1点が出土している。

S K14・25：調査区の東隅に位置し、全体のおよそ半分が検出されている。東壁の断面図によると、S K14は幅1.9m、深さ40cmを測る。S K14は暗褐色、黒褐色の砂質土を含む。粘土ブロック及び炭化物を微量～少量含む土層が多い。遺物は比較的多く出土している。陶磁器では珠洲すり鉢1点、瓷器系陶器の壺甌1点・鉢1点、瀬戸天目碗1点・碗型鉢1点・瓶子1点、白磁碗1点が出土している。また、石製品の砥石1点、鐵製品の刀子2点、銅製品の錢2点が出土している。

S K25は幅3.2m、深さ1.0mを測る。S K25は褐色、黒褐色、黒色の砂質土を含む。炭化物は微量～少量混入する層が多い。新旧関係ではS K14はS K25よりも新しい。遺物では珠洲すり鉢1点、瓷器系陶器の壺甌1点が出土している。

S K10：調査区の北西側に位置する。平面形は東西に長い楕円形を呈する。壁は途中で段差を有する。規模は東西2.25m×南北0.9m、深さ70cmを測る。土層は上位層（1・2層）に黒褐色の砂質土が堆積するが、中位層（3d層）からは地山砂層と思われる明黄褐色の砂質土が層状を成している。さらに下層（5～8層）では骨片を含んだ黒色及び黒褐色のシルト土層が堆積している。出土遺物が非常に多い。陶磁器では青磁碗1点、瀬戸瓶子1点、珠洲壺R種（ロクロ製）2点・すり鉢3点、瓷器系陶器の壺甌2点が出土している。その他に鐵製品では釘4点、刀子と思われるもの1点、用途不明の鐵製品2点が出土している。平面形や骨片を多く含む土層等から土坑墓の可能性が高いが、出土遺物からは副葬品を示すものは見られなかった。

S K15：調査区の北東側に位置する。平面形は不整な円形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がる。規模は南北1.35m×東西1.1m、深さ70cmを測る。堆積土は細かく18層に分けられた。暗褐色・黒褐色・黒色の砂質土を含む。3層・4層・14層からは粘土ブロックの混入が認められた。遺物では珠洲の壺R種1点・壺甌1点、瀬戸の平碗1点、鐵釘4点、用途不明の鐵製品1点が出土している。

S K18・19：調査区中央のやや南寄りに位置する。S K19はS K18よりも新しい。平面形は両方ともに梢円形を呈する。S K18の規模は東西80cm、南北50cm、深さ20cmを測る。遺物では珠洲すり鉢1点、鉄釘1点が出土している。

S K19の規模は南北70cm、東西40cm、深さ40cmを測る。遺物では鉄釘1点が出土している。

S K26・27・28：調査区中央のやや東寄りに位置する。S K27はS K26よりも新しい。S P181・182はS K27を切っている。S K28は浅く、他の遺構との重複関係は不明であった。

S K26は壁が内側に大きく抉り込んでおり、袋状を呈する。なお、検出上面では南北1.0m、東西50cmを測るが、底辺では南北60cm、東西1.15mとなる。最下層の第3層では、たくさんの骨片が確認されており、土坑墓の可能性が非常に高い。出土遺物では瓷器系陶器の鉢1点が出土している。遺物からは副葬品を示すものは認められなかった。

S K27の平面形は東西に長い梢円形を呈する。壁は途中で段差を有する。規模は東西1.65m×南北80cm、深さ50cmを測る。上面では、拳大の角礫が多数検出された（写真7）。角礫の集石中からは多数の陶磁器や鉄製品が含まれていた（写真8）。角礫は上位層に多く、埋土中位あたりでなくなってしまう。堆積土は3層に分けられた。黒褐色及び黒色の砂質土を含む。骨片が微量に認められたので、土壤サンプルを採取した。遺物では角礫中から珠洲壺4点（接合）・壺R種1点、瀬戸壺瓶1点・柄付片口鉢1点、瓷器系陶器壺甕1点、鉄釘2点が出土している。また、埋土中からは珠洲すり鉢1点、鉄釘2点が出土している。平面形や骨片を微量に含む特徴から土坑墓の可能性が高いが、やはり遺物からは副葬品を示すようなものは見られなかった。

S K28は浅い掘り込みで、テラス状になっているが、不明である。

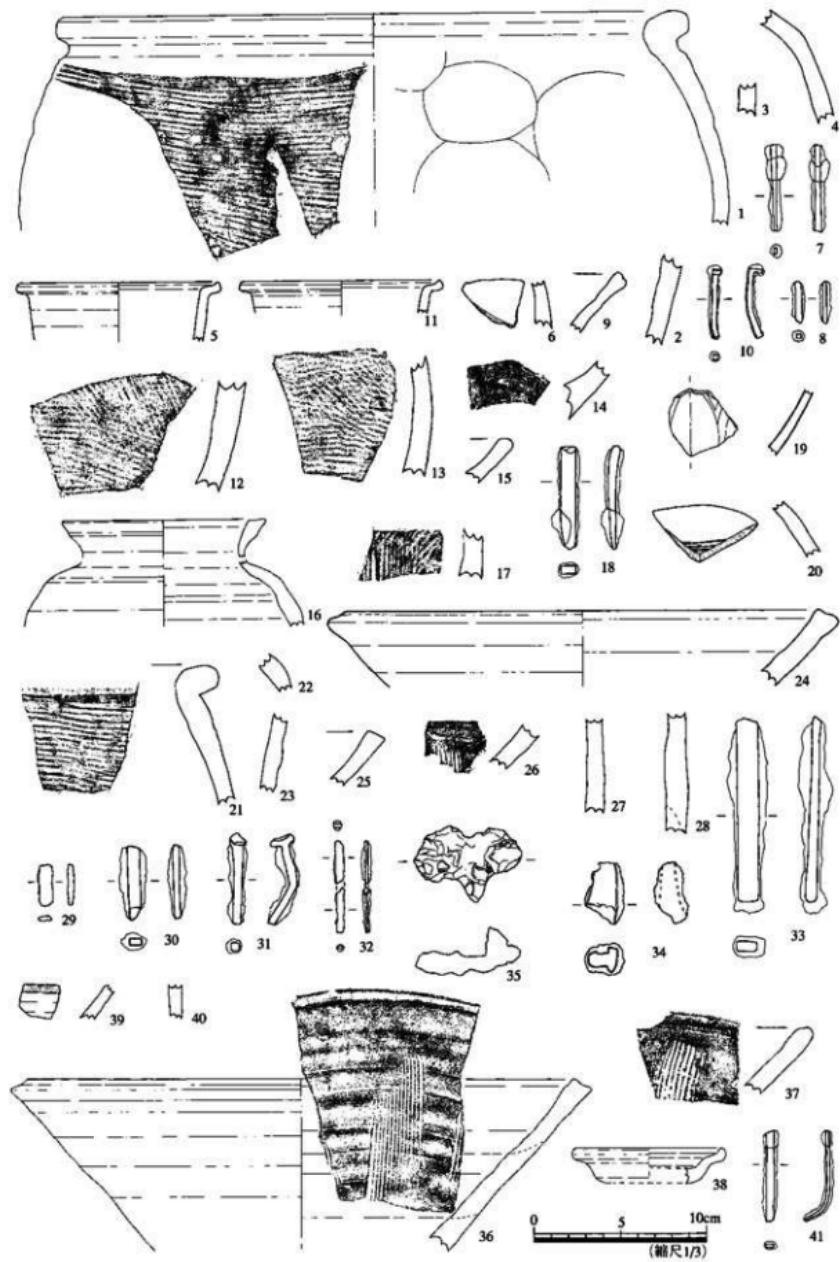
#### ＜中世遺物＞

中世遺物では主に陶磁器・鉄製品（釘・鎌・刀子）・土製品（土錐）・石製品（砥石）・銅製品（錢）が出土している。また、前述したように遺構に伴って多くの遺物が出土している。ここでは包含層の出土遺物も含めた中世陶磁器の概要を述べていきたい（第22～25図）。

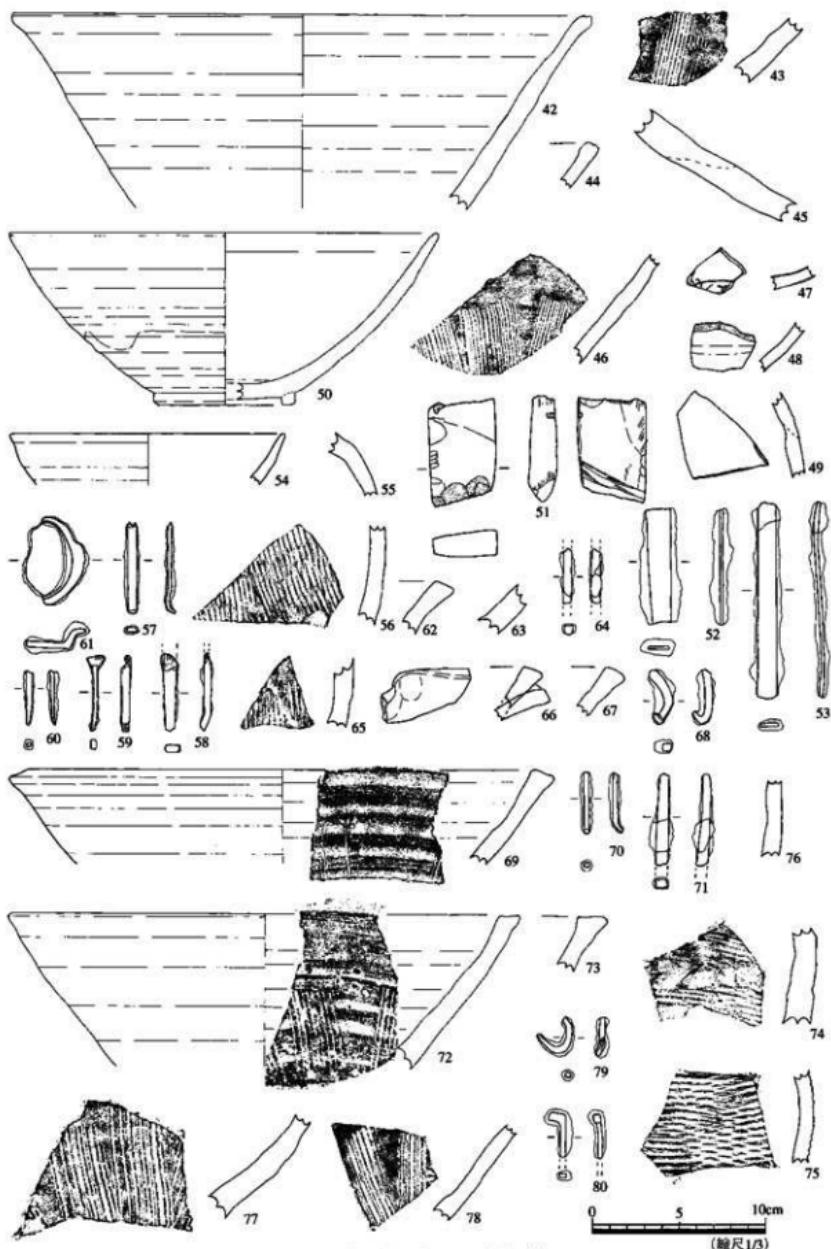
中世遺物では陶磁器が最も多く出土している。陶磁器には青磁・白磁の中国陶磁器、瀬戸・珠洲・瓷器系陶器・中世土師器の国産（施釉）陶器・土器がある。

出土陶磁器から見た年代は14世紀代を中心としたものがまとまって出土している点に特徴がある。15世紀代のものは包含層を中心に若干の遺構から出土しているだけであった。

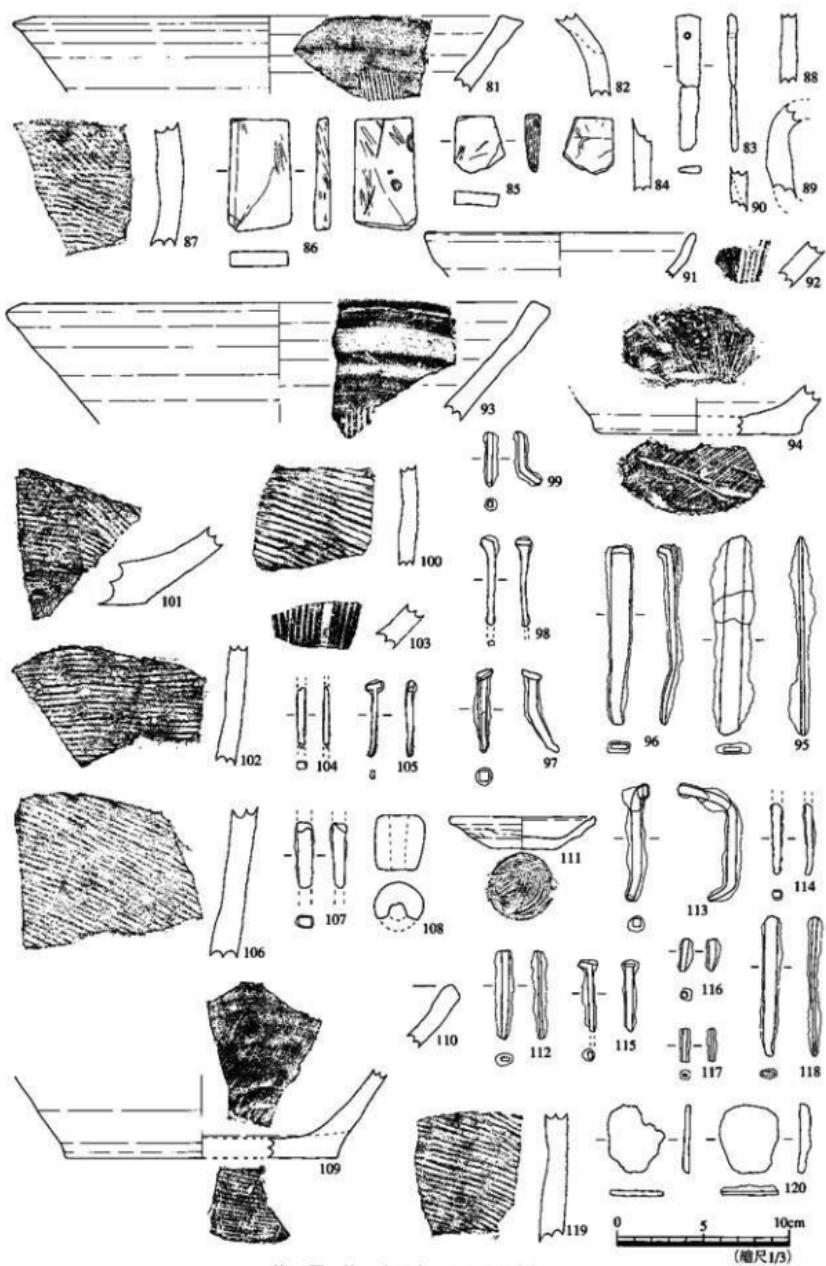
十三塗遺跡における14世紀代の好資料といえる。そこで、中世陶磁器の種類・器種別組成を第11表で示した。種類別では珠洲・瀬戸・瓷器系陶器・青磁・白磁・土師器の順に出土量（破片数）が多くなっている。珠洲は全体の54.6%を占めており、壺・甕・すり鉢の貯蔵・調理具で占められている。逆に青磁・白磁の中国陶磁の占める割合は全体の8.5%となり、国産のそれに比べて、非常に低い比率となっている。また、用途別に見ると、青磁・白磁・瀬戸の食膳具では、瀬戸の占める割合が中国陶磁器よりも高い傾向を示している。



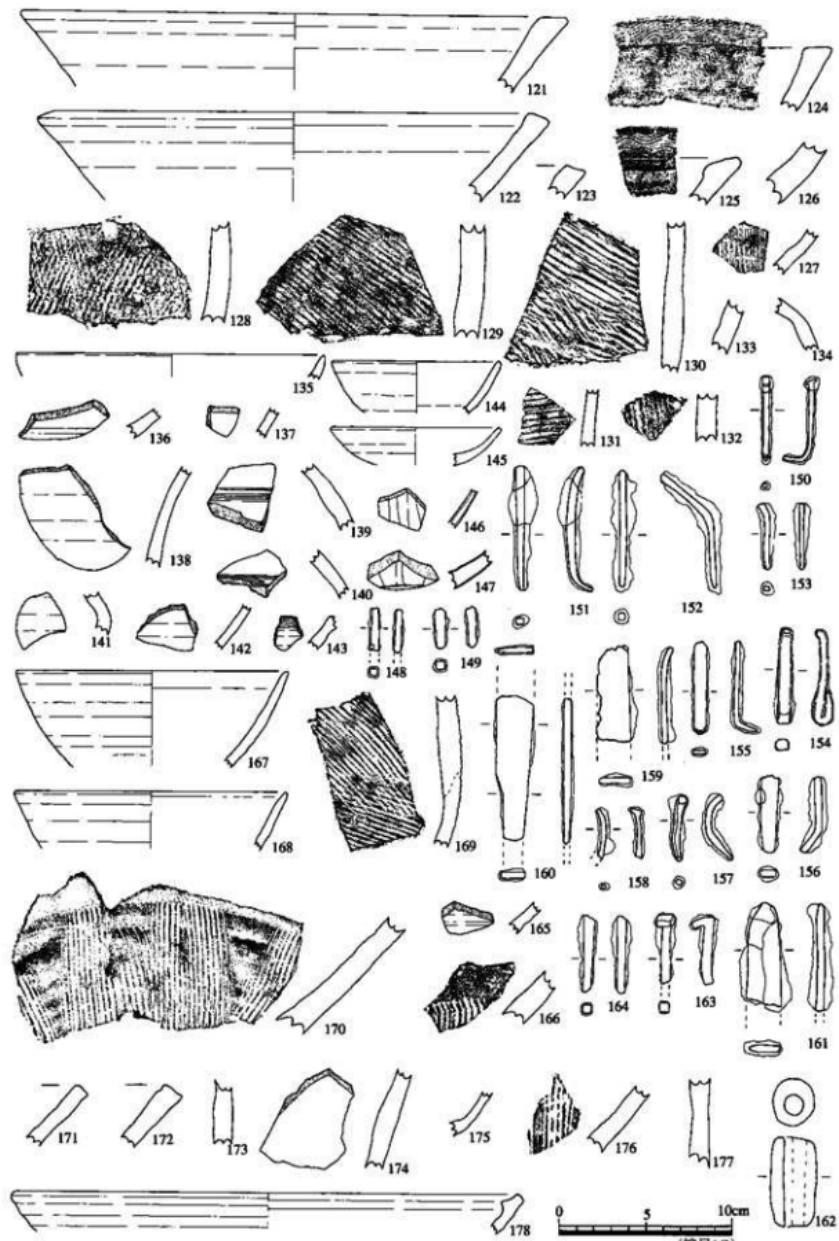
第22図 第78次調査 出土遺物(1)



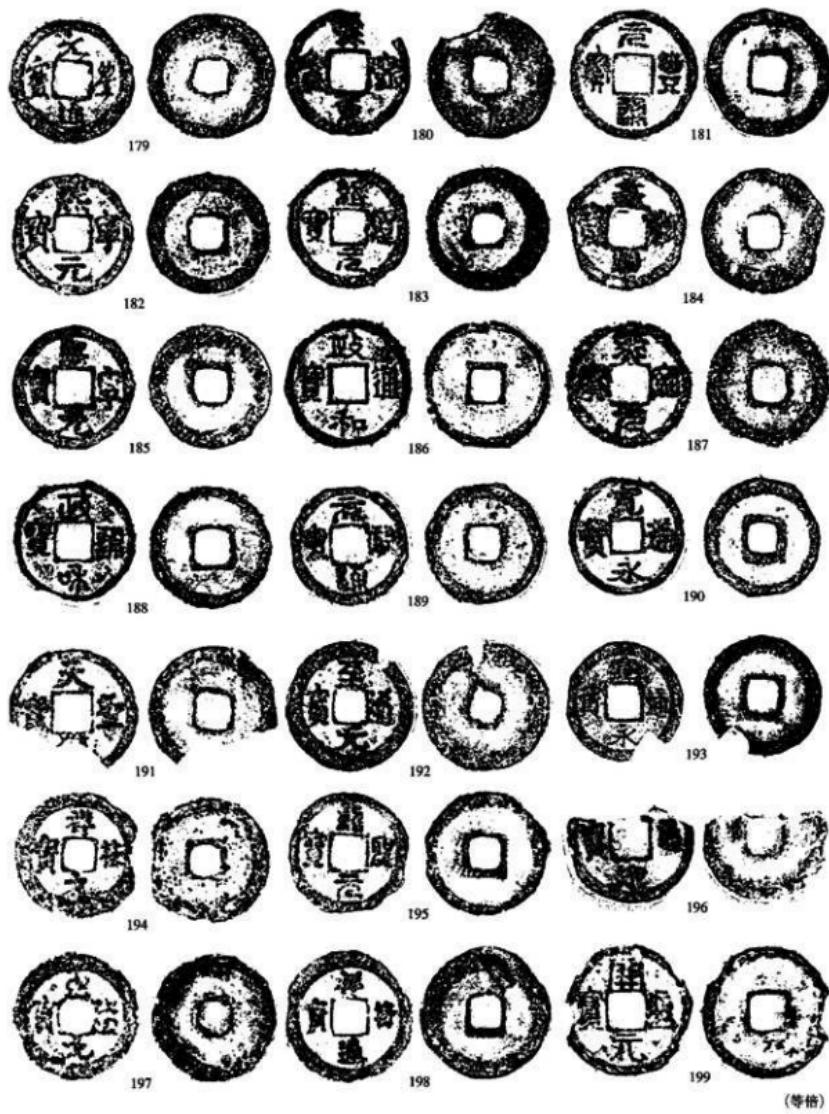
第23図 第78次調査 出土遺物 (2)



第24図 第78次調査 出土遺物(3)



第25図 第78次調査 出土遺物 (4)



第26図 第78次調査 出土遺物 (5)

第10表 78次調査 出土遺物計測表

番号	種類	器種	遺構	層位	レベル	備考	整理番号
1	珠洲	斐	SK27 集石中	1,680		珠洲IV期、二次被熱あり	97VII221ほか
2	珠洲	斐R種		1,461			97VII254
3	愛器系	東・斐		1,672			97VII223
4	愛器系	東・斐		1,534			97VII243ほか
5	縄	柄付片口鉢		1,667		古瀬戸中Ⅱ期	97VII241ほか
6	珠洲	斐・瓶		1,598		古瀬戸中期	97VII213
7	鉄製品	釘		1,705			97VII14
8	鉄製品	釘		1,738			97VII11
9	愛器系	鉢		1,607			97VII12
10	鉄製品	釘		1,527			97VII41
11	瀬戸	柄付片口鉢	SP181 SE01	1,598		古瀬戸中Ⅱ期	97VII210
12	珠洲	東・斐		1,745		二次被熱あり	97VII133
13	珠洲	東・斐		0,791		二次被熱あり	97VII229
14	珠洲	すり鉢		1,677			97VII128
15	珠洲	すり鉢		1,746		珠洲IV期	97VII136
16	珠洲	東R種	SK01	1,817			97VII057ほか
17	珠洲	東・斐		1,677			97VII07
18	鉄製品	釘	SK05 SK10	1,728			97VII02
19	吉磁	碗		1,664		吉奈森系鏡B 1類（1-5類）、通弁文鏡	97VII119
20	瀬戸	瓶子		1,258		古瀬戸前Ⅰa期	97VII202
21	珠洲	斐		1,420		珠洲IV期、二次被熱あり	97VII174
22	珠洲	東R種		1,676			97VII118
23	珠洲	東R種		1,585			97VII172
24	珠洲	すり鉢		1,740		珠洲IV期	97VII117
25	珠洲	すり鉢		1,392		珠洲IV期	97VII175
26	珠洲	すり鉢		1,465			97VII207
27	愛器系	東・斐		1,027			97VII203
28	愛器系	東・斐		1,465			97VII170
29	鉄製品	釘		1,088			97VII221
30	鉄製品	釘		1,311			97VII218
31	鉄製品	釘		1,634			97VII116
32	鉄製品	釘		1,314			97VII217
33	鉄製品	刀子		1,455			97VII171
34	鉄製品	不明		1,026			97VII206
35	鉄製品	不明		1,268			97VII173
36	珠洲	すり鉢	SE02	1,532		珠洲IV期	97VII152
37	珠洲	すり鉢		1,606		珠洲IV～V期	97VII147
38	瀬戸	折縁小皿		1,426		古瀬戸後Ⅰ期	97VII151
39	瀬戸	折縁深皿				古瀬戸中期	97VII150
40	愛器系	東・斐		1,546			97VII145
41	鉄製品	釘	SK13 SK14	1,851			97VII153
42	愛器系	鉢		1,539			97VII235
43	珠洲	すり鉢		1,837			97VII149
44	愛器系	鉢		1,744			97VII156
45	愛器系	東・斐		1,183			97VII245
46	珠洲	すり鉢		1,777			97VII163
47	白磁	碗		1,755		白磁C群	97VII162
48	瀬戸	天目碗		1,698		古瀬戸中Ⅳ期～後Ⅰ期	97VII195
49	瀬戸	蒙釉		1,612		古瀬戸前期	97VII240
50	瀬戸	碗型鉢		1,637		古瀬戸中Ⅳ期、台脚付高台	97VII161ほか
51	石製品	砥石	SK15 SK16	1,805			97VII159
52	鉄製品	刀子		1,784			97VII157
53	鉄製品	刀子		1,643			97VII196
54	瀬戸	平鉢		1,788		古瀬戸中Ⅳ期	97VII164
55	珠洲	東R種		1,185			97VII234
56	珠洲	東・斐		1,351			97VII232
57	鉄製品	釘		1,586			97VII192
58	鉄製品	釘		1,318			97VII231
59	鉄製品	釘		1,213			97VII233
60	鉄製品	釘		1,619			97VII190
61	鉄製品	不明		1,585			97VII230
62	珠洲	すり鉢	SK16 SK17	1,789		珠洲IV期	97VII130
63	珠洲	すり鉢		1,740			97VII131
64	鉄製品	釘		1,596			97VII125
65	珠洲	東・斐		1,548			97VII184
66	珠洲	すり鉢		1,532		珠洲IV期	97VII185
67	珠洲	すり鉢		1,707		珠洲IV期	97VII123
68	鉄製品	釘		1,554			97VII183

番号	種類	属性	遺構	部位	レベル	備考	整理番号
69	珠洲	すり鉢	S K18		1,705	珠洲IV期	97VII143
70	鉄製品	釘			1,579		97VII187
71	鉄製品	釘	S K19		1,604		97VII188
72	珠洲	すり鉢	S K21		1,375	珠洲IV期	97VII201
73	珠洲	すり鉢	S K22		1,821	珠洲IV期	97VII140
74	珠洲	壺・甌			1,739		97VII139
75	珠洲	壺・甌			1,760		97VII141
76	容器系	壺・甌			1,822		97VII142
77	珠洲	すり鉢	S K24		1,145	酸化軟質物成	97VII253
78	珠洲	すり鉢	S K27		1,357		97VII258
79	鉄製品	釘			1,190		97VII257
80	鉄製品	釘			1,675		97VII255
81	珠洲	すり鉢	S K25		1,329	珠洲IV期	97VII246
82	容器系	壺・甌			1,882		97VII197
83	鉄製品	刀子			1,021	柄の部分	97VII250
84	容器系	壺・甌	S D01		1,846		97VII169
85	石製品	砥石	S D03		1,680		97VII154
86	石製品	砥石	S D14		1,444		97VII208
87	珠洲	壺・甌	S D04		1,562	二次被熱あり	97VII144
88	容器系	壺・甌	S P01		1,740		97VII061
89	珠洲	壺	S P06		1,735		97VII072
90	容器系	壺・甌	S P11		1,578		97VII098
91	窓戸	平鏡	S P03		1,805	古窓戸後日期～後田期	97VII063
92	珠洲	すり鉢	S P04		1,778		97VII069
93	珠洲	すり鉢	S P106		1,261	珠洲IV期	97VII236
94	珠洲	すり鉢	S P41		1,343		97VII111
95	鉄製品	刀子			1,583		97VII109
96	鉄製品	鏡	S P13		1,538		97VII108
97	鉄製品	釘			1,385		97VII113
98	鉄製品	釘	S P110		1,238		97VII114
99	鉄製品	釘			1,370		97VII182
100	珠洲	壺・甌	S P102		1,589		97VII138
101	珠洲	壺			1,230	二次被熱あり、底部	97VII247
102	珠洲	壺・甌	S P116		1,637	二次被熱あり	97VII205
103	珠洲	すり鉢	S P108		1,680		97VII132
104	鉄製品	釘	S P100		1,558		97VII120
105	鉄製品	釘	S P115		1,632		97VII194
106	珠洲	壺・甌	S P118		1,496		97VII220
107	鉄製品	釘	S P138		1,707		97VII165
108	土質品	土鏡	S P117		1,653		97VII219
109	珠洲	壺	S P175		1,606		97VII122
110	珠洲	すり鉢			1,648	珠洲IV期	97VII121
111	窓戸	折縁小皿	S P166		1,596	古窓戸中直期～中IV期	97VII204
112	鉄製品	釘			1,403		97VII239
113	鉄製品	釘	S P157		1,187		97VII259
114	鉄製品	釘	S P24		1,643		97VII102
115	鉄製品	釘	S P139		1,697		97VII166
116	鉄製品	釘	S P194		1,275		97VII265
117	鉄製品	釘	S P174		1,495		97VII166
118	鉄製品	釘	S P205		0,913		97VII264
119	珠洲	壺・甌	S P146		1,700	二次被熱あり	97VII168
120	鉄製品	不明	S P143		1,417		97VII232
121	珠洲	すり鉢		II層	1,806	珠洲IV期	97VII028
122	珠洲	すり鉢			1,817	珠洲IV期	97VII068
123	珠洲	すり鉢			1,801	珠洲IV期	97VII106
124	珠洲	すり鉢			1,830	珠洲IV期、櫛目波状文	97VII052
125	珠洲	すり鉢			1,780	珠洲IV期、櫛目波状文	97VII087
126	珠洲	すり鉢			1,814		97VII012
127	珠洲	すり鉢			1,794		97VII030
128	珠洲	壺・甌			1,757	二次被熱あり	97VII033
129	珠洲	壺・甌			1,795		97VII043
130	珠洲	壺・甌			1,769		97VII034
131	珠洲	壺・甌			1,879		97VII019
132	珠洲	壺・甌			1,879		97VII055
133	珠洲	壺R種			1,946		97VII016
134	珠洲	壺R種			1,854		97VII104
135	窓戸	平鏡			1,830	古窓戸中IV期	97VII027
136	窓戸	平鏡			1,747	古窓戸後II期	97VII054
137	窓戸	平鏡			1,768	古窓戸後期	97VII076

番号	種類	形種	遺構	層位	レベル	備考	整理番号
138	窓戸	尊式花瓶		II層	1,792	古瀬戸後期	97V036
139	窓戸	四耳壺			1,813	古瀬戸前田・IV期	97V032
140	窓戸	壺・瓶			1,900	古瀬戸壺へ中期	97V017
141	窓戸	花瓶			1,819	古瀬戸中期	97V051
142	窓戸	天目碗			1,878	古瀬戸中IV期～後I期	97V020
143	窓戸	盤類			1,811		97V056
144	窓戸	静動小皿			1,989	古瀬戸後I期	97V023
145	白磁	皿			1,818	白磁D群	97V031ほか
146	青磁	碗			1,851		97V005
147	青磁	碗			1,815		97V086
148	鉄製品	釘			1,809		97V060
149	鉄製品	釘			1,781		97V070
150	鉄製品	釘			1,838		97V068
151	鉄製品	釘			1,942		97V037
152	鉄製品	釘			1,791		97V066
153	鉄製品	釘			1,706		97V083
154	鉄製品	釘			1,875		97V039
155	鉄製品	釘			1,746		97V053
156	鉄製品	釘			1,769		97V093
157	鉄製品	釘			1,715		97V110
158	鉄製品	釘			1,739		97V025
159	鉄製品	刀子			1,895		97V014
160	鉄製品	刀子			1,876		97V022
161	鉄製品	刀子		田層	1,742		97V155
162	土製品	土器			1,680		97V169
163	鉄製品	釘		I層度乱	1,828		97V045
164	鉄製品	釘			1,805		97V046
165	窓戸	盤類			1,758	古瀬戸後期	97V044
166	珠洲	すり鉢					97V296
167	窓戸	平鍋	東壁トレンチ			古瀬戸後I期	97V266
168	窓戸	平鍋				古瀬戸後I期	97V267
169	珠洲	壺・甕	南壁トレンチ		1,650	ピット8	97V262
170	珠洲	すり鉢				ピット6, ピット7	97V260ほか
171	珠洲	すり鉢	表探			珠洲南期	97V268
172	珠洲	すり鉢				珠洲西期	97V222
173	愛媛系	壺・甕					97V278
174	窓戸	梅瓶				古瀬戸前期	97V274
175	窓戸	知印				古瀬戸中期前半	97V273
176	珠洲	すり鉢					97V304
177	愛媛系	壺・甕					97V305
178	窓戸	知印付大皿		廻土中		古瀬戸後直期	97V303

第10表 78次調査 出土遺物計測表

番号	種類	形種	遺構	層位	レベル	備考	整理番号
179	銅製品	鉄	S E02		1,633	元豊通寶(北宋1078年)行書	97V146
180	銅製品	鉄	S K13		1,654	熙寧元宝(北宋1068年)篆書	97V148
181	銅製品	鉄	S K14		1,787	元豐通寶(北宋1078年)篆書	97V158
182	銅製品	鉄			1,738	熙寧元宝(北宋1068年)真書	97V198
183	銅製品	鉄	S K15		1,626	紹聖元宝(北宋1094年)篆書	97V191
184	銅製品	鉄	S K17		1,588		97V124
185	銅製品	鉄			1,588	熙寧元宝(北宋1068年)真書	97V124
186	銅製品	鉄	S K21		1,545	政和通寶(北宋1111年)分榜	97V238
187	銅製品	鉄	S D04		1,660	熙寧元宝(北宋1068年)篆書	97V134
188	銅製品	鉄			1,704	政和通寶(北宋1111年)篆書	97V135
189	銅製品	鉄	S P09		1,761	元祐通寶(北宋1085年)篆書	97V077
190	銅製品	鉄	S P39	近世～近現代 遺構面	1,700	寛永通寶	97V090
191	銅製品	鉄	S P103		1,335	天聖元宝(北宋1023年)真書	97V228
192	銅製品	鉄	S P191		1,177	至道元宝(北宋995年)真書	97V263
193	銅製品	鉄		I層度乱	1,838	寛永通寶	97V006
194	銅製品	鉄		II層	1,785	祥符元寶(北宋1009年)	97V038
195	銅製品	鉄			1,833	紹聖元宝(北宋1064年)篆書	97V057
196	銅製品	鉄			1,825	○宋通寶(○部欠損)	97V059
197	銅製品	鉄			1,825	至道元宝(北宋995年)行書	97V059
198	銅製品	鉄		I・II層	1,830	祥符元寶(北宋1009年) 南壁セクション	97V259
199	銅製品	鉄	地点不明			開元通寶(唐621年)	97V298

第11表 78次調査 中世土器・陶磁器の種類・器種別組成表

種類	器種	破片数	個体数
青磁	碗	7	0
	小計	7 [ 5.0% ]	0 [ * % ]
白磁	碗	3	0
	豆	2	0
	小計	5 [ 3.5% ]	0 [ * % ]
窓戸	天目碗	2	0
	碗類	7	0.38
	豆類	4	1.27
	盤類	4	0.02
	鉢類	7	0.59
	壺・瓶類	8	0
	不明	1	0
	小計	33 [ 23.4% ]	2.26 [ 56.6% ]
	漆器	28	0.36
陶器系	すり棒	38	1.06
	壺・瓶類	11	0.17
	小計	77 [ 54.6% ]	1.59 [ 39.9% ]
	壺・瓶	15	0.0
木	林	3	0.14
	小計	18 [ 12.8% ]	0.14 [ 3.5% ]
土師器	壺	1	0
	小計	1 [ 0.7% ]	0 [ * % ]
統計		141 [ 100.0% ]	3.99 [ 100.0% ]

第12表 78次調査 潤戸製品の器種別組成表

種類	器種	破片数	個体数
銅鏡(鉄鉱)	天目鏡	2 [ 6.2% ]	0 [ * % ]
銅鏡(灰船)	平鏡	7 [ 21.2% ]	0.38 [ 16.8% ]
	縦縞小皿	1	0.17
	折縞小皿	2	1.10
	鉢皿	1	0
銀鏡	小計	4 [ 12.1% ]	1.27 [ 56.2% ]
	折縞深皿	1	0
	御目付大皿	1	0.02
	鉢皿	2	0
鋳鏡	小計	4 [ 12.1% ]	0.02 [ 1.0% ]
	銅鏡片	4	0.35
	柄付片口跡	3	0.24
	小計	7 [ 21.2% ]	0.59 [ 26.0% ]
漆・瓶類	四耳壺	1	0
	桶瓶	1	0
	瓢子	1	0
	尊式花瓶	1	0
	花瓶	1	0
	壺・瓶	3	0
	小計	8 [ 24.2% ]	0 [ * % ]
	不明	1 [ 3.0% ]	0 [ * % ]
統計		33 [ 100.0% ]	2.26 [ 100.0% ]

## くまとめ

第78次調査の要点をまとめると以下のとおりである。

調査地点は十三塗遺跡の北端部、半島状に伸びる砂洲上の先端に近い場所で、現在の県道沿いに面する十三集落内的一角に位置する。

調査では近世～近現代の遺構面と中世遺構面の2遺構面を検出した。

中世遺構は標高1.8m、現在の地表面から約70cm下がった所から検出した。調査面積が40m<sup>2</sup>にも関わらず、多くの中世遺構が重複して検出されている。主な中世遺構には溝・井戸・土坑のほか、掘立柱建物を構成する柱穴が多數検出された。また、土坑には一般的なごみ穴のほかに、墓の可能性が高い土坑が確認されている。土坑墓の可能性が高い遺構にはSK10・26・27がある。

また、井戸は2基検出されている。井戸は生活飲料として必要不可欠であり、ここが居住空間として利用されていたことが明らかである。このことから、井戸と土坑墓の前後関係は明らかではないが、両者が並存する可能性は低く、ある時期に場の機能や性格が大きく変化したものと推察される。

出土遺物では青磁・白磁の貿易陶磁器、株洲・瀬戸・瓷器系陶器・土師器の国産の土器・陶磁器がある。その他に鉄製品(釘・鎌・刀子)・土製品(土鍼)・石製品(砥石)・銅製品(錢)が出土地で発見している。陶磁器から見た年代は14世紀代を主体とした遺構がほとんどと言ってもよく、15世紀代の遺物は包含層出土が中心となっている状況であった。

これまで十三塗遺跡の内陸部における調査(推定領主館・家臣団屋敷地区)によって、十三塗の最盛期が14世紀末～15世紀前半を中心とした時期と考えられている。このことから、十三塗の発展期ともいえる14世紀代には前湯に面した北端部の地域がすでに居住空間として利用されていたことが明らかとなった。



1. 調査前風景（東から）



2. 上面遺構（近世～近現代）検出（南から）



3. 中世遺構 完掘（東から）



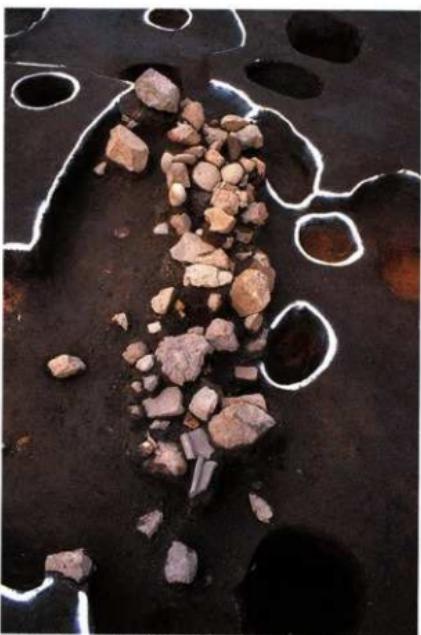
4. 中世遺構 完掘（西から）



5. 中世遺構 完掘（南から）



6. 調査区南壁 断面層位（北から）



8. SK 27 集石接写 珠洲・瀬戸出土（東から）

7. SK 27 集石検出（東から）



9. SK 27 集石除去後に再検出（北から）



10. SK 27 断面層位（東から）



11. SK 27 完掘（東から）



12. SE 01 完掘（東から）



13. SK 12 井戸（南から）



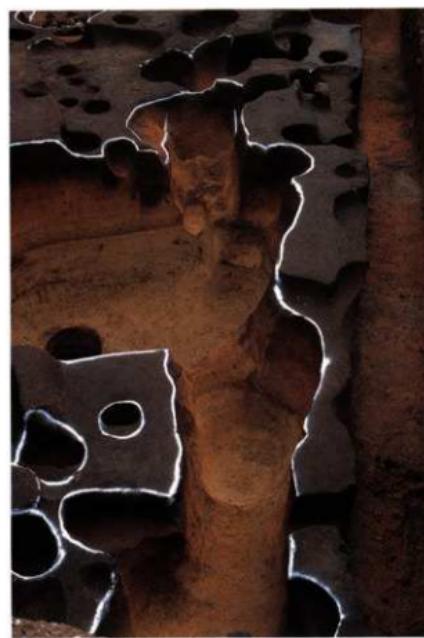
14. SK 15 完掘（南から）



15. SK 10 完掘（東から）



16. SK 10 断面層位（南から）



17. SD 04 完掘（西から）



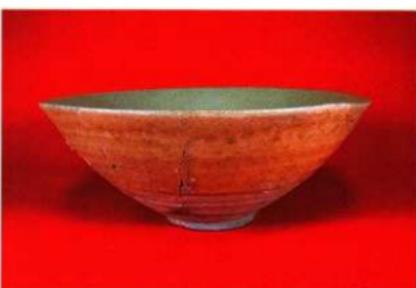
18. SK 13 瓷器系陶器鉢出土（西から）



19. SP 116・166 珠洲甕・瀬戸折縁小皿出土（西から）



20. 青磁・白磁・古瀬戸



21. 古瀬戸 碗型鉢



22. 珠洲 壺甕



23. 珠洲 壺



24. 珠洲 すり鉢



25. 瓷器系陶器 壺甕・鉢



26. 石製品（砾石）・土製品（土錘）



27. 古瀬戸 折縁小皿

<引用・参考文献>

- 森田勉・横田賢次郎 1978 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集4』  
九州歴史資料館
- 吉岡康暢 1994 「中世須恵器の研究」吉川弘文館
- 九州近世陶磁学会 2000 「九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会10周年記念」
- 大橋康二 1989 「肥前陶磁 考古学ライブリー55」ニュー・サイエンス社
- 有田町史編纂委員会 1988 「有田町史 古窯編」
- 藤沢良祐 1996 「中世瀬戸窯の動態」『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その生産と流通～』財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター設立5周年記念シンポジウム
- 国立歴史民俗博物館 1994 「日本出土の貿易陶磁 東日本編Ⅰ」国立歴史民俗博物館資料調査報告書5
- 国立歴史民俗博物館 1995 「青森県十三ヶ遺跡・福島城跡の研究」国立歴史民俗博物館研究報告第64集

# 報告書抄録

ふりがな	とさみなといせき							
書名	十三漢遺跡							
副書名	1999・2000年度 第90次・120次調査概報ほか							
シリーズ名	市浦村埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第13集							
編著者名	柳原 激高、長利 豪美							
編集機関	青森県市浦村教育委員会							
所在地	〒037-0401 青森県北津軽郡市浦村大字相内字岩井81-384							
発行機関	青森県市浦村教育委員会							
発行年月日	西暦 2001年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m)	調査原因	
十三漢遺跡 第90次調査	青森県北津 軽郡市浦村 大字十三字 琴湖岳506	02385	38022	41度 01分 43秒	140度 19分 59秒	19990628～ 19990930	400	村内遺跡発掘調 査事業
十三漢遺跡 第120次調査	同上 琴湖岳503	02385	38022	41度 01分 43秒	140度 19分 59秒	20000906～ 20001204	300	村内遺跡発掘調 査事業
十三漢遺跡 第51次調査	同上 深津77付近	02385	38022	41度 01分 42秒	140度 19分 49秒	19970402～ 19970414	30	十三地区漁業集 落環境整備事業 に伴う調査
十三漢遺跡 第54次調査	同上 深津61付近	02385	38022	41度 01分 37秒	140度 19分 47秒	19970423～ 19970527	7	十三地区漁業集 落環境整備事業 に伴う調査
十三漢遺跡 第78次調査	同上 深津142	02385	38022	41度 01分 54秒	140度 19分 58秒	19971021～ 19971112	40	十三地区防火水 槽設置に伴う調 査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
十三漢遺跡 第90次調査	集落	中世・近世	樋署・溝状遺構・井戸・ 土坑・集石遺構・鍛冶・ 鋳造関連遺構・柱穴	青磁・白磁・青白磁・中国陶器・ 瀬戸・珠洲・瓷器系陶器・中世土 師器・鉄製品・土製品・石製品・銅 製品・木製品	鍛冶・鋳造関連 の遺構が出土			
十三漢遺跡 第120次調査	集落	中世・近世	樋署・溝状遺構・井戸・ 土坑・集石遺構・鍛冶・ 鋳造関連遺構・柱穴	青磁・白磁・青白磁・中国陶器・ 瀬戸・珠洲・瓷器系陶器・中世土 師器・鉄製品・土製品・石製品・銅 製品・木製品	15世紀中頃の一 括資料出土			
十三漢遺跡 第51次調査	集落	中世・近世	(近世)柱穴・溝・土坑・ 井戸 (中世)溝・土坑・柱穴	(近世)肥前陶器 (中世)青磁・瀬戸・珠洲・瓷器系 陶器	16世紀末・17世 紀初頭の井戸一 括資料出土			
十三漢遺跡 第54次調査	集落	中世・近世	(近世)柱穴 (中世)溝・土坑・柱穴	(近世)肥前系陶器 (中世)青磁・瀬戸・珠洲・瓷器系 陶器・鉄製品・銅製品	13～14世紀代 の、まとまった 遺物が出土			
十三漢遺跡 第78次調査	集落	中世・近世	(近世)土坑・柱穴 (中世)溝・井戸・土坑・ 柱穴	(中世)青磁・白磁・瀬戸・珠洲・瓷器系 陶器・鉄製品・銅製品・土製品・石製品	14世紀代の、ま とまりのある遺 物が出土			



(十三湖・福島城の遠景。北東から撮影。)

---

市浦村埋蔵文化財調査報告書 第13集

## 十三湊遺跡

---

～1999・2000年度 第90・120次調査概報ほか～

---

発行年月日 2001年3月31日

編集・発行 青森県市浦村教育委員会

〒037-0401

青森県北津軽郡市浦村大字相内字岩井81-384

TEL: 0173-62-3751

十三湊遺跡発掘調査事務所

TEL: 0173-62-3176

印 刷 (株)青森オフセット印刷

〒030-0802

青森市本町2丁目11番16号 TEL: 017-775-1431

---